

令和2年度 医療分野の研究開発関連予算 概算要求のポイント

健康・医療戦略推進本部の下で各省が連携し、医療分野の研究開発を政府一体で推進。

	令和2年度概算要求・要望額		令和元年度 当初予算額
	概算要求額	要望額	
日本医療研究開発 機構 (AMED) 対象 経費	1,586億円 (内30,総6,文726,厚601,経223)	1,166億円 (総6,文554,厚433,経173)	420億円 (内30,文173,厚168,経50)
インハウス研究 機関経費	860億円 (文324,厚454,経82)	759億円 (文242,厚435,経82)	101億円 (文82,厚19)

- 上記経費に加え、内閣府に計上される「科学技術イノベーション創造推進費(令和2年度概算要求・要望額 555億円)」の一部(175億円)を医療分野の研究開発関連の調整費として充当見込み。
- 上記における計数は、それぞれ四捨五入しているため、端数において合計とは合致しないものがある。

※ 精査により計数等に異動が生じる場合がある。

主な取組

令和2年度以降を対象期間とした新プロジェクトは、開発目的(予防、診断、治療、予後・QOL)ごとの特性を活かしたモダリティ等に基づく5プロジェクトとし、これに沿って予算を重点化する。

1. 医薬品プロジェクト 378億円

■ 基礎研究の成果を医薬品として実用化につなげるため、切れ目のない研究開発を推進・支援し、産学が連携しながら新薬創出を目指すとともに、これらに必要な創薬の基盤整備等の研究開発・実用化に取り組む。

- ー バイオ医薬品等の新たなモダリティの創薬技術や製造技術の開発等を強化
- ー 疾患領域においては、ゲノム医療、免疫療法による医薬品開発、核酸医薬等を利用した治療薬開発、疾患解明研究による創薬シーズ創出等を進める

2. 医療機器・ヘルスケアプロジェクト 190億円

■ 医療機器・ヘルスケアについて、基礎から実用化までの切れ目のない研究開発支援及びこれらに必要な基盤整備を行うことにより、我が国発の革新的な医療機器や社会ニーズに対応した医療機器・ヘルスケアの実用化を目指す。

- ー 将来の医療・福祉分野のニーズを踏まえた、AI、ロボット等の技術を活用した革新的な医療機器等の開発
- ー 疾患の特性に応じた早期診断・予防、低侵襲治療等のための医療機器等の開発
- ー 健康・医療分野におけるムーンショット型の研究開発
- ー 臨床現場における実践的な人材の育成

3. 再生・細胞医療・遺伝子治療プロジェクト 204億円

■ 基礎から臨床段階まで切れ目無く一貫した支援を行い、臨床応用を見据えた安全性・標準化等に関する基礎研究、疾患特異的iPS細胞等を活用した創薬研究、非臨床・臨床段階に移行した課題支援、企業等による製品化支援等を通じて、再生・細胞医療・遺伝子治療の実用化を促進する。

- ー 再生・細胞医療・遺伝子治療、創薬の実現に資する多様な研究開発を支援、臨床研究段階への移行を促進
- ー 再生医療の実用化促進に資する技術・人材等の基盤整備
- ー 個別化治療の実現や治療法の確立に至っていない疾患の克服を目指す、再生・細胞医療及び遺伝子診断薬・治療薬の開発や適用拡大等による実用化を促進
- ー 幹細胞や遺伝子治療薬等の実用化に向けた製造技術基盤を確立

4. ゲノム・データ基盤プロジェクト 248億円

■ ゲノム・データ基盤の整備・利活用を促進し、ライフステージを俯瞰した疾患の発症・重症化予防、診断、治療等に資する研究開発を推進するための基盤を構築することで、個別化予防・医療の実現を目指す。

- ー 健康人及び各疾患領域の全ゲノム情報等を含む、大規模かつ質の高いゲノム・データ基盤の整備・利活用促進
- ー 研究開発に必要なバイオリソースの収集・提供
- ー 構築したデータベースを用いた人工知能(AI)の医療分野での実装

5. 研究開発基礎基盤プロジェクト 544億円

■ 様々な疾患を対象に他のプロジェクトにおける研究開発につながる基礎的研究を行うとともに、革新的な医療技術を創出するための一気通貫の研究基盤を整備する。

- ー 様々な疾患を対象に、基盤的技術開発、疾患メカニズムの解明、シーズの掘り起こし等の基礎的研究を推進
- ー 研究開発を加速する支援体制の構築に向け、解析基盤の構築、共同利用施設の整備、人材育成等を推進
- ー 質の高い臨床研究や治験を実施する体制や仕組みを整備し、官民連携等による実証研究基盤を構築
- ー 国際協力のもと、我が国にとって真に価値のある国際共同研究を推進
- ー 革新的な医療技術を推進するための基金を創設